



2013年3月12日

通貨三国志

公益財団法人 国際通貨研究所

理事長 行天 豊雄

イタリアの政情不安でヨーロッパ情勢がまたおかしくなってきた。まあイタリア人はこういう「危機」には馴れっこになっているから、連立構想がどう展開しても本当の破局に陥ることはない。かと云って、事態が劇的に改善することもないだろう。仮にイタリアが何とかなっても、FISH（仏・伊・西・蘭）と呼ばれる四問題国の何処かで次の「危機」が起るに違いない。当分の間、ヨーロッパとはそういうものだとは割切る他ない。

米国もどうも落ち着かない。数字的には一進一退を繰り返しながら着実に改善していると皆が云うし、株も上っているが、では勝利宣言を出すかと云うと、その勇気がある人も誰もいない。予算をめぐる議会の泥仕合は延々と続いていて、メディアは大変だ、大変だと騒ぐが、肝心のマーケットは意外な程呑気である。おそらく、一番心痛しているのはバーナンキ議長だろう。異常な緩和政策のプラスとマイナスの効果が揃って徐々に顕われてきている。当然のことではあるのだが、金融政策にとっては一番悩ましい時期に入ろうとしている。

日本はいよいよアベノミックスの開演である。役者は全部舞台に揃った。事前のチラシに踊った過激な科白でお客の期待は高まっている。参院選迄に物価と長期金利と為替はどう動くかである。

当面ユーロ建資産のリスクプレミアムは中立か微増ということだろう。米国は目先のリスクと中長期的な楽観が混じるが、流れとしては出口が近づく方向に進んで行くだろうから、ドルは強含みということになる。

日本の物価は、円安・原料高・便乗値上げで、下げ止まるだろう。参院選迄にプラス領域に入る可能性もある。長期金利に関しては、投資家は JGB 保有について次第に神経質にはなっているが、参院選迄は方向転換を始める勇気はない。

こう考えると、円相場については総体的に云ってまだ円安モードだろう。しかし、日本自身の不注意で、円安問題という寝た子を起してしまった実情があるから、これ以上

の円安に進む力は強くない。参院選迄は1ドル100円というのは想定外だ。

(株式会社マネーパートナーズへの寄稿)

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべて御客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願ひ申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。

Copyright 2012 Institute for International Monetary Affairs (公益財団法人 国際通貨研究所)

All rights reserved. Except for brief quotations embodied in articles and reviews, no part of this publication may be reproduced in any form or by any means, including photocopy, without permission from the Institute for International Monetary Affairs.

Address: 3-2, Nihombashi Hongokucho 1-chome, Chuo-ku, Tokyo 103-0021, Japan

Telephone: 81-3-3245-6934, Facsimile: 81-3-3231-5422

〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町 1-3-2

電話 : 03-3245-6934 (代) ファックス : 03-3231-5422

e-mail: admin@iima.or.jp

URL: <http://www.iima.or.jp>